

ケッチ

『が〜まるちょば』と言えば、世界 35 ヶ国でパフォーマンスを披露してきたユニット。1999年に結成し、当時は、日本における公演のチケットは入手が困難であり、爆発的人気をほこっていました。2019年に『が〜まるちょば』としての活動に終止符を打ち、ソロとして活躍なされているケッチさんを11月26日「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」にて清瀬中にお呼びしました。

ケッチさんは一言もしゃべることなく、舞台を進めていきます。宙に浮くカバンに翻弄される人、透明な壁をつたい、舞台の上に設置してないはずのエレベーターに乗り、ひじから先だけの腕に襲われ、ついにはサメに追われる。矢継ぎ早に繰り出される技に爆笑。更にジャグリングやマジックに突入。非言語によるパフォーマンスは会場を一つにし、笑いを感動に昇華させていきました。



写真使用許諾 <https://mgplanning2022.com>

パントマイム教室では、見えない壁や、空中に止まる紙袋などに挑戦。

曰く、パントマイムのポイントは、4点。

- ①緊張 ②緩和 ③気持ちを込める ④一部分を固定して他を動かす



ケッチさんは“気持ちを込める”ことで、カバンが本当に宙に浮いているように、無い壁があるかのように、見え伝わると強く語っていました。舞台上上がった生徒たちも「透明な壁に阻まれている!」「空中に止まった紙袋が微



動だにしない!」と気持ちを込めました。

言葉を使用しないゲームにも挑戦しました。出題が終わるまで回答者は体育館の外で待機する。ケッチさんが場所と動作を指定します（例えば舞台袖の柱を手で触る）。その後、体育館に戻ると、観客の拍手のみで回答者をその場所に導き、動作まで当てさせるというゲーム。正解に近づくと拍手が大きくなり、逸れてしまえば拍手は起きず、回答者は拍手を頼りに探っていきます。二人が挑戦し、二人とも見事、正解にたどり着きました。近づき度合いによって拍手に大小があり、その場面にヒントを出す生徒の皆さんの気持ちが表れていました。非言語によるコミュニケーションを体感しました。

ケッチさんは夢を実現させるために、『夢はかなう』と題して、生徒たちに語ってくれました。「好きなことを繰り返し練習し、長く続けていたら、経験が深まり、知識が深まり、評判が広まった。その評判は韓国へ届きそれをきっかけに世界へと場所を移した。ですから長く続けることが大切。経験や知識を深めるためにもいろいろな人の話をきいてほしい。自分に合わなかったら、違う人の話を聴けばいい。」そして、「世界に出ることは一つも怖くない、だって、みんなは今日、言葉が通じなくとも気持ちは伝えられる事を知ったから。」

パントマイムの語源は古代ギリシャ語のパント Pantos（全ての物）とマイム Mimos（模倣する）。ケッチさんのパフォーマンスは模倣からオリジナルに、『パント舞夢』へと昇華しています。

生徒たちの描く、人生というス ケッチ の彩りがまた増えていきました。